



エアコンお手入れ、やってはいけない NG 行為とは

夏の猛暑もやわらぎ、エアコンを使う頻度も減ってきました。そんな今だからこそ、夏の間フル稼働が続いたエアコンをぜひお手入れしましょう。とはいえ、ご家庭でできるお手入れは意外と少なく、触らない方がいい部分の方が多いため、正しいお手入れ方法を知っておくことが大切です。今回は、そんなデリケートなエアコンのお手入れ方法をご紹介します。

エアコンお手入れの基本と注意点

最近のエアコンはとてもハイテクでデリケートな構造になっています。内部の部品や機器を不用意に触ると、故障や不具合を起こす可能性があります。基本的には外側と、前面のパネルを開けて見える部分（エアフィルターまで）以外は触らないようにしましょう。

家庭でできるお手入れ手順

まずはバケツと水、雑巾を何枚か用意します。作業を始める際は、感電などの事故を防ぐため、必ず運転を停止して電源プラグを抜きましょう。

準備ができたなら、以下の手順でやさしくお掃除していきます。

1. 外側や前面パネル、送風フラップの拭き掃除

板状の動くパネル部分も含めて、水拭きで汚れを取り除きます。ただし水洗いは絶対に NG です。

2. エアフィルターのホコリ取り

掃除機でホコリを吸い取るか、水洗いできる機種なら丁寧に洗います。

3. 給気フィルターのホコリ取り

掃除機でのお手入れか、水につけおき洗いをします。

4. ダストボックスのお手入れ

掃除機でのホコリ除去か水洗いで清潔に保ちます。

5. 抗ウイルスフィルターのお手入れ

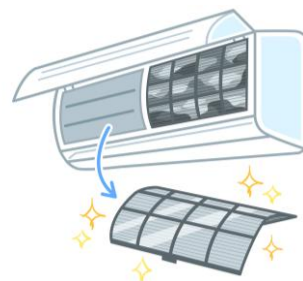
掃除機でホコリを取り除きます。※機種により非搭載
お手入れ時の注意点

エアフィルターの奥（薄い金属板が折り重なっているアルミフィンなど）には触ってはいけません。綿棒や歯ブラシなどを使うのも NG です。

市販の洗浄スプレーは非推奨

エアコン用の洗浄スプレーは、ほとんどのメーカーがおすすめしていません。内部に残った洗剤が匂いやカビ、故障の原因になるほか、冷媒ガスの配管腐食によるガス漏れや、電子部品の故障、さらには静電気火災の危険性もあるためです。消臭スプレー・アロマスプレー・エアダスターなども同様の理由で使用は避けましょう。

家庭でできるお手入れには限りがありますが、内部クリーン機能や使用後の送風運転で日常メンテナンスは十分です。本格的なクリーニングが必要な場合は、メーカーの有料サービスを利用しましょう。



全国に広がる家づくりネットワーク

INOS

イノスグループ



有限会社 滝本工務店